

令和元年度 学校関係者評価報告書

令和2年3月31日 学校法人千葉学園千葉幼稚園

1. 本年の教育目標

大人も子どもも共に『よくみる よくきく よくする』

八戸に生まれ日本人女性初の新聞記者であり、**教育者羽仁もと子の言葉**を教育課程に織り込みながら、のびのびとした明るい環境の中で人とのふれあいを大切に、毎日の生活を丁寧に『よくみる よくきく よくする』人に、**大人も子どもも共に学び合いながら**。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

新時代創造 共に笑い 共に創る子どもたちは今、生活の中から、遊びの中から何を学んでいるのか
次に必要な経験は何か そのための援助は何か 保育の基本に立ち返る

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取組状況
1	保育を創る保育記録の見直し 子ども理解に努め、目の前の子どもの姿から保育者としての振り返りを行い、その振り返りから、次の保育計画を立てる。	B	・目の前の子どもの姿ではなく、こうあらねばならないという姿に主眼がおかれ記録されていた。一人一人違う子どもたちの姿に対し、一人一人どう援助し、クラス経営をしていくか。保育者の言葉だけではなく、教材研究の必要性があった。
2	社会の多様性を保育内容に取り入れる 昨年度の自己評価から、多様性や世界への視点を保育に取り入れる。	B	・科学教材が不足していたり、日常的にある科学への関心が保育者自身欠けていた。また性別、人種、世界への視点が不足していた。

評価（A…十分に成果があった。B…成果があった。C…少し成果があった。D…成果がなかった。）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	保育者としての経験範囲の中で予測できる範囲のことについては、教材を使用して保育を進めることが出来るが、時代や社会現象、自然等、予測できない事柄に対し、その場その場で保育へ取り入れることが意識できていなかった。また、保護者アンケートにもあるように、直接的な保育内容以外で現代ならではの課題（預かり保育、スクールバス運営、PTA活動等）に対し、現代的な課題を意識しながら運営することができていなかった。保育の基本を考える際に、間接的に保育を支える事柄について（経営・運営面）の意識が薄かった。

評価（A…十分に成果があった。B…成果があった。C…少し成果があった。D…成果がなかった。）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取組方法
1	新しい時代の保育を考える	①社会の多様性を意識しながら、新しい時代の保育を考える。 ②保育記録の充実 再度取り組み、充実を図る。 ③幼稚園教育要領を深く読み、教育課程を再度見直す。
2	安全管理	①預かり保育や給食活動など、保育を支える事柄の安全管理について見直しを行う。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・真摯に自己評価を実施し、評価は適正である。今後の質向上に期待したい。
- ・保育記録については、目先の反省ではなく、記入の観点を明確にし、経営方針等を含め振り返ることにより、効果が生まれるものと思う。子ども理解をさらに深めてほしい。
- ・社会の多様性を保育に取り入れることは時代の必須事項であるので、大いに保育内容に取り入れてほしい。
- ・今後も社会に開かれた教育課程を意識し、保護者も共に園の経営方針や目標を共有する中で、評価を進めてほしい。